



**Digital
transformation**

宇宙分野に関する協力について

JICA ガバナンス・平和構築部 STI・DX室



Leading the World with Trust

JICA, with its partners, will take the lead in forging bonds of trust across the world, aspiring for a free, peaceful and prosperous world where people can hope for a better future and explore their diverse potentials.

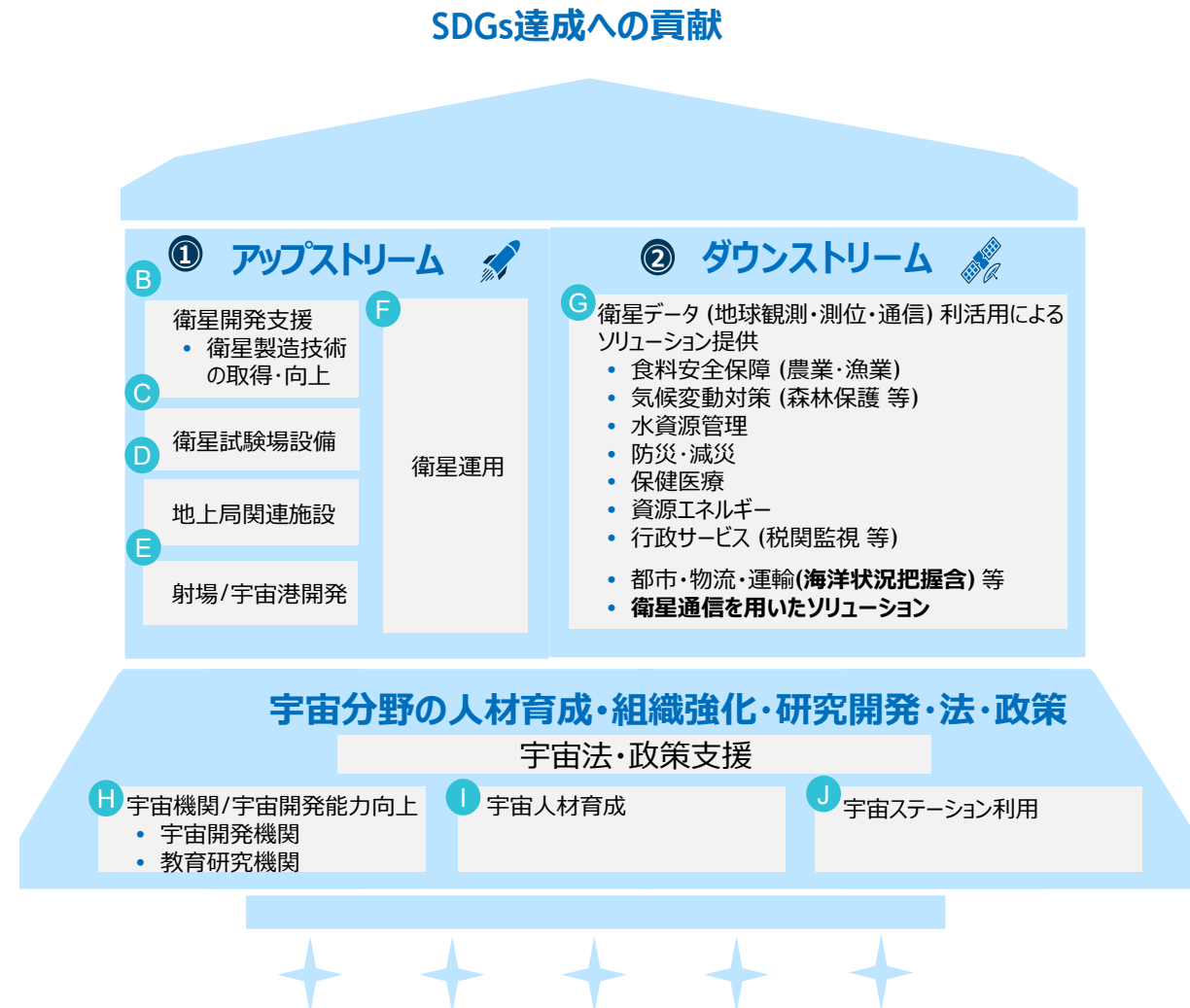


JICAのGS諸国向け宇宙協力重点方針と支援領域（2025年度～）

宇宙協力重点方針



宇宙分野における協力可能性領域・サブセクター



2014年4月、JAXAとJICAは開発途上地域が直面する多様な開発課題及び地球規模課題の解決に貢献することを目的として、連携協力の推進に関する基本協定を締結。



宇宙機関を対象とした取り組み



(参考) 宇宙国際頭脳循環プログラム

宇宙技術開発・利活用におけるGS諸国の中核人材の育成を目的に、GS諸国と日本の間での研究者・民間人材を含むネットワークを構築する



長期

- 研修名：宇宙人材育成
- 目的：各国SDGsを効果的に達成するため、宇宙関連の政策策定や技術開発・利活用を担う高度専門人材の育成と、日本政府・民間企業・大学・研究機関人材とのネットワーク構築・拡充を通じ、長期に渡る人材交流基盤形成を図ること。
- 対象者：宇宙開発・技術利活用に携わる政府職員・技術者・研究者
- 期間：2年～3年
- 内容：本邦大学の修士・博士課程で教育・研究活動。その他付加的プログラムで日本の宇宙関連施設見学、民間企業とのネットワーキング等。
- 実績：8ヶ国24名受入れ（2021年～2025年）

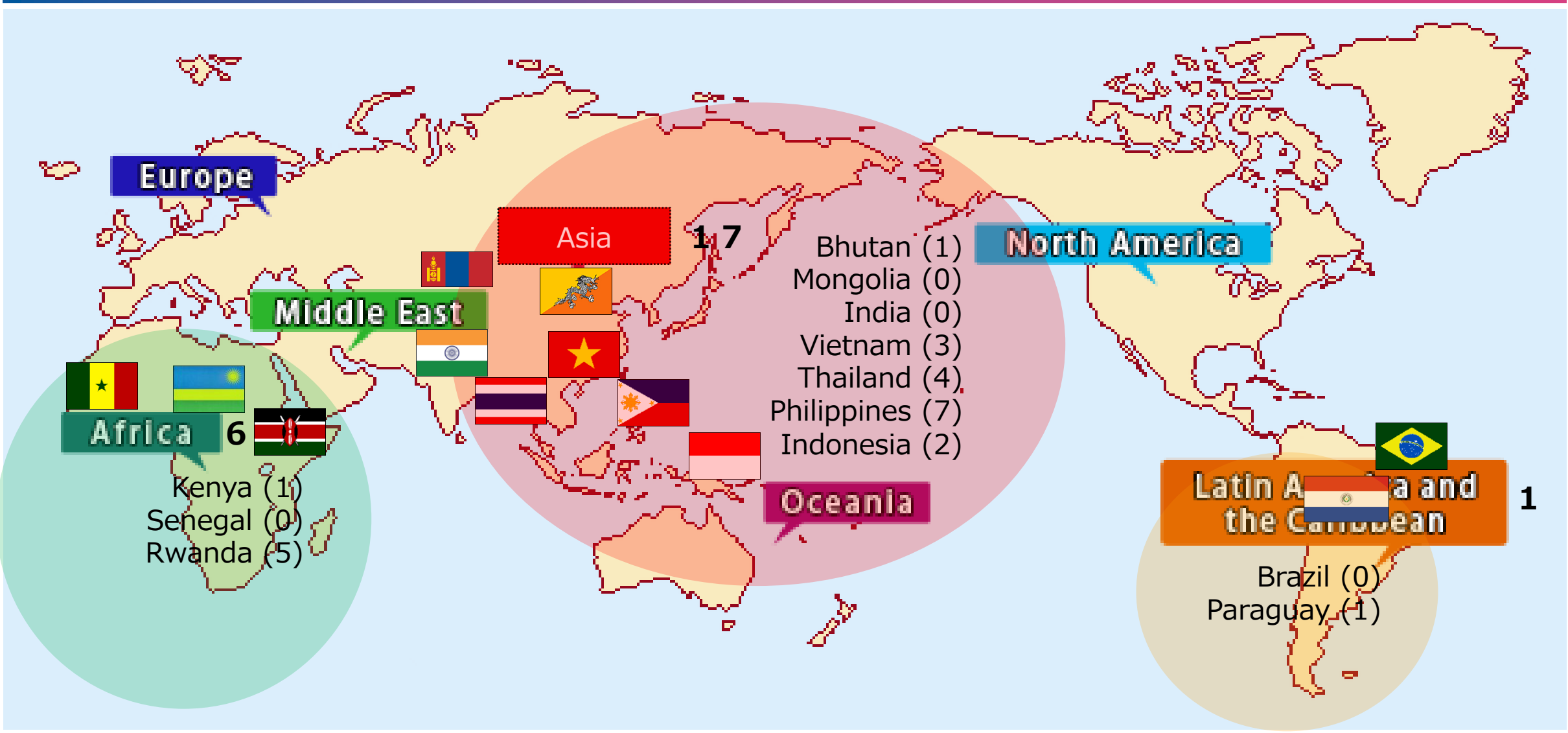


短期

- 研修名：SDGsに資する宇宙技術の利活用能力向上
- 目的：各国のSDGs達成に有用な宇宙技術の利用促進に貢献すること
- 対象者：宇宙開発・技術利活用に携わる政府機関職員 10名程度/年
- 期間：2週間程度
- 内容：宇宙関連政策や計画立案に必要な法制度、実施体制、関連施策、衛星データ利活用の研修、日本の宇宙関連施設見学、民間企業とのネットワーキング等。
- 実績：16ヶ国49名（2021年～2025年）



宇宙人材育成 長期研修員受入れ実績（2021-2025）



SDGs達成への貢献



8ヶ国 24名

アップストリーム



衛星工学・システムデザイン（10人）

東大・航空宇宙工学



東大・先端科技研



九工大・工学研究院



慶應大・SDM



リモセン・測位（5人）

山口大・創成科学研究科



東大・環境災害リモセン



北大・地球環境学



東京海洋大・海事研究院



ダウンストリーム



農業・自然災害対策・環境 等（8人）

京大・農学研究科



北大・理学院



東北・災害科学研



京大・防災研



北大・河川流域工学



北大・環境科学院



京大・地球環境学舎



神戸情報・ICTイ



ガバナンス

宇宙政策・法（1人）

政策研究大学院大学



受入国と人数 (2021~2025)

- ・ アジア 6ヶ国25名: フィリピン (3)、ベトナム (6)、マレーシア (8)、インドネシア (3)、ブータン (2)、モンゴル (3)
- ・ 中東 2ヶ国 4名: エジプト (1)、チュニジア (3)
- ・ アフリカ 7ヶ国20名: ケニア (1)、ナイジェリア (1)、ルワンダ (12)、マダガスカル (1)、モザンビーク (1)、ガボン (1)、アンゴラ (3)
- ・ 中南米 2ヶ国 7名: メキシコ (1)、パラグアイ (6)

■ 主な研修先:
JAXA、内閣府、経済産業省、東大、九工大、民間企業など



その他・付加的な研修プログラム（国内リトリート）

目的：宇宙人材育成にかかるJICA研修員と、本邦の宇宙分野産学官関係者との情報交換、連携促進、ネットワーク強化

活動

福岡県リトリート研修

2026年2月2日から2月5日、本プログラムで受入れ中の各国行政官が2027年にAPRSAF（アジア・太平洋宇宙機関会議）が開催される予定の福岡県でリトリート研修をしました。福岡県では産官学連携により宇宙人材育成や、新しい技術およびビジネス創出を通じて、宇宙産業の発展を目指す取り組みが進められています。今回、超小型人工衛星分野において国際的に高く評価される開発実績を有する九州工業大学、その九州工業大学発の衛星開発スタートアップ企業であるKick Space Technologies株式会社、九州大学発スタートアップ企業で、曇りや夜間でも地表を撮影できる小型衛星の開発・量産化を進めている株式会社QPS研究所や、宇宙ビジネス向けのクラウドサービスを展開する株式会社Fusic、衛星に搭載するセラミックス製品を開発・製造する黒崎播磨株式会社、ロケットエンジンの推進力や液体燃料計測用のレベル計を含む開発・製造企業である株式会社マツシマメジャテックを訪問しました。また、九州工業大学では現地大学生とアイデアソンを開催し、社会課題の解決に向けた宇宙技術の活用アイデアを議論しました。参加した行政官にとって、福岡の宇宙分野の活動を理解し、交流を通じて互いの理解を深める充実した研修となりました。



